

ぶらりわが街宮沢界限

(11) 一 滝山合戦で兵火による神社焼失

「大神町」—観音寺・東勝寺(庵)・駒形神社

- 「滝山城」—「滝山合戦」—戦国時代、山内上杉氏に属する武蔵国守護代大石顕重(あきしげ)が、長禄2年(1458)高月城(現八王子市高月町)を築城。大石定重(さだしげ)城主時代の永永元年(1521)これを東に移築したのが「滝山城」である。定重が大永7年(1528)死後に家督(かとく)を継いだ大石定久(さだひさ)の代に、武蔵国に進出してきた後北条(別名小田原北条)の北条氏康(ほうじょううじやす)に対し、天文15年(1546)「河越決戦」で敗れ降伏し、その二男氏照(うじてる)(1540~90)を養子に迎え、永禄3年(1560)入城。氏照は「滝山城」を後北条氏の武蔵国及び関東の領国支配の一拠点とした。

永禄12年(1569)、甲斐武田(かいたけだ)の猛攻をうけた。世にいう「滝山合戦」である。この年に、北条・上杉との講和が成立により、北条・武田が対立を引き起こし、武田軍は、一軍は小仏峠(こぼとけとうげ)を超え武蔵国へ入り、信玄(しんげん)のひきいる本隊は、9月に碓氷峠(うすいとうげ)を超え、上野国(こうずけのくに)に入り、武蔵寄居の「鉢形城」(城主北条氏邦(氏照の弟))を包囲したがそのまま、「滝山城」の対岸拝島の森「大日堂」に本陣を敷いた。ために付近は戦場になり、大神の「東勝寺」及び「駒形神社」が北条方の一味であり、特別な役割を果たしていると特に睨(にら)まれ、兵火にあって焼失してしまった。武田軍は、多摩川を大神の「平の渡し」を渡り、「滝山城」を攻撃したが、多摩川の断崖絶壁を利用し堅固で築城されており落ちず、2日後武田軍は小田原城の攻撃に向かった。天正6年(1578)氏照は、城を滝山から「八王子城」に移した。

「観音寺(かんのんじ)」(大神町3-6-5)

[宗派] 天台宗 [山号] 大上山(だいじょうさん) [院号] 薬王院(やくおういん) [本尊] 十一面観世音菩薩 元三大師(天台宗の名僧)の座像もある。

[由緒] 開山・開祖とも不詳であるが、かつては東勝寺(とうしょうじ)と称し、現在東勝庵(あん)の地にあった。創建については、延文元年(1356)・文明7年(1475)などの発見された板碑から鎌倉時代後期と推定されている。その後、永禄12年(1569)「滝山合戦」で焼失したが、慶長8年(1603)3月住職の権大僧都広栄法印(ごんたいそうずこうえいほういん)が、徳川家康の助成により現在地に再建、寺号を観音寺と改めた。

[堂・その他の文化財] 境内には薬師堂・鐘楼(しょうろう)などがあるが、現本堂は近年再建されたものである。大般若経(だいはんんにゃきょう)・明和年間(1764~72)以来の過去帳・近世文書20点余りなどが現存する。境内本堂前の左右に枝垂れ桜が満開の頃は見事です。

記

防犯宮沢支部会計 西山 禎一

